

民国期の中国人は『日本軍閥』という概念をどのように 認識したか

陳 紅民（浙江大学）

原文は中国語、翻訳：于 寧

現代における「軍閥」の言葉の概念は日本から中国に伝わった。蒋介石は主に中国国内における軍事首領による乱行や政治干渉を表す際にこの概念を用いていた。日本軍が中国に侵攻した後、侵攻を実施した日本軍部を指す時にも蒋介石は「日本軍閥」という言葉を用いていた。

「日本軍閥」を日本国民の対極として区別することは、蔣の「日本軍閥」という概念を強調する基本的なロジックである。日本軍閥が日本国内の民衆に反対され、海外でも抵抗されるのならば、中国が抗日を堅持し、日本軍閥を倒すことは必然的な選択になると考えられる。以上のような認識は、蒋介石が「日本軍閥」概念を用い、強調する重要な基礎であり、彼の「抗戦到底（最後まで抵抗し続ける）」理念の理論的な基盤でもある。蒋介石はさらに「日本軍閥」概念を日本の民衆に対する宣伝にも使用し、彼は「日本軍閥と日本国民の対立」を強調することを通じて、日本の各界を分断し、日本の民衆に立ち上がり軍閥を倒そうと働きかけた。支援の獲得や世界各国に対する戦時中の国際的な宣伝においても、蒋介石は同様に「軍閥」概念を用いて、日本の侵略行為への反感と中国の抗戦への同情と支援を各国に喚起しようとした。

蒋介石は中国侵攻を主張する日本軍部を「軍閥」という言葉を用いて定義し、日本に対する宣伝において反「軍閥」の旗を掲げることで、中国国内と同じような効果を獲得することを図った。しかし、日本軍部の勢力は蔣が期待したように早くは崩れず、日本国民も蔣の理解とは異なり全員が軍部に反対するわけではなく、当然、蔣の宣伝に応じて自ら反「軍閥」革命を引き起すこともなかった。

■陳 紅民（CHEN, Hongmin）

山東省泰安市出身。歴史学博士（南京大学中国近現代史専攻）。浙江大学求是特聘教授。蒋介石と近代中国研究センター主任。博士課程指導教員。浙江省歴史学会副会長。1985年から2006年までは南京大学歴史学部（助教、講師、副教授、教授）、南京大学中華民国史研究センター副主任を務めた。2006年から現在に至って、浙江大学歴史学部（歴史研究科）に勤める。歴史学部主任、中国近現代史研究所所長を務めた。専攻は中華民国史、蒋介石と近代中国。『美国哈佛大学哈佛燕京図書館蔵蔣廷黻資料』など学術著書 30 点余りを出版。学術論文は 150 本余りを掲載。研究成果は省と国家教育部レベルの奨励に複数受賞。

アメリカ、イギリス、イタリア、オーストラリア、日本、韓国などの国や、香港、マカオ、台湾などの地域で学術交流を行った。

主な著作：「台湾時期蒋介石与陳誠關係探微（1949 - 1965）」、『近代史研究』、2013 年第 2 号。「政治判断与抉択：蒋介石与毛沢東在抗戦勝利前後」、『澳門理工学報（人文社会科学版）』、2015 年第 4 号。「『向導』週報与中共早期国民党左派、右派概念的建構」（胡馨儀と共著）、『学術界』、2022 年第 4 号。